

まちのキラリびと



楽しく手話を学んで
いきましょう！

敦賀市聴覚障がい者福祉協会
会長 遊津 貞美子 さん

手話でのコミュニケーションが日常風景である敦賀市を目指して

敦賀市聴覚障がい者福祉協会は、「聴覚障がい者に対する社会一般の認識を深めること」「聴覚障がい者の自立支援・社会経済活動の参加を促進すること」を目的として昭和36年に発足しました。現在、正会員と賛助会員合わせて29人が在籍しています。聴覚障がい者福祉協会は、地域住民すべての人の福祉の増進を図り、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指し、互いに支え合い助け合う地域づくりの推進に寄与するため、地域の手話講座やイベントを実施しています。

また、敦賀市などが実施するスポーツ大会やスポーツ教室、敦賀港カッターレースにも参加し、社会参加を通じて手話の普及活動を実施しています。

令和3年3月22日、「敦賀市手話言語条例」が制定され、日頃の活動成果や手話言語に対する強い思いが実を結んだ結果となりました。条例制定はゴールではなく、「新たな活動への一歩」と捉え、手話が言語であることを市民に理解普及を進めるための活動をしていきますが、まだ理解されていないのが現状です。条例の制定を契機に、この先5年、10年後に、手話でのコミュニケーションが、日常風景である敦賀市を目指してこれからも活動していきます。

今後、広報つるがの中で、日常的に使える手話を写真やイラストを使って掲載します。日常生活の中でぜひ使ってみてください。

▼敦賀港カッターレースに参加しました！



▼カパンづくり教室の様子



まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



古い資料からも
新しい発見が！

案内人 学芸員 奥村 香子

向出山古墳群

基本情報

種別：国指定史跡 所在地：中



▲鉄地金銅装眉庇付冑



▲向出山1号墳（西側造出から）

敦賀を見渡す王の墓

向出山古墳群は、中地籍から泉ヶ丘へと昇る丘陵上にある古墳4基から成る古墳群です。昭和29年から60年までに3度にわたって発掘調査が行われたものの、これまでの全容は報告されていませんでした。敦賀市では現在、出土品の多くを所蔵する私立敦賀郷土博物館のご協力を得て再整理と内容確認調査を進めています。

なかでも5世紀後半に築かれた向出山1号墳は、全長60mを超える敦賀最大の古墳で、黄金の冑や銀の刀をはじめ、豪華な副葬品が多数出土しています。これは、中国や朝鮮半島との交流が盛んになる中で、地理的にその玄関口にあたる敦賀がヤマト政権に重要視されたことの現れだと考えられています。調査によって、これまで分かっていた以上に副葬品の種類や数が豊富であったことや、埋葬施設（石室）の作り方に朝鮮半島系の手法が用いられ、この古墳に葬られたのが朝鮮半島とゆかりが深い人物であったことがわかってきました。

向出山1号墳の墳頂からは敦賀平野と敦賀湾を一望でき、まさに敦賀の王が眠る墓にふさわしい景色です。皆さんも現地を訪れて古代の風に吹かれてみてはいかがでしょうか。



▲向出山1号墳墳頂からの眺め

広報担当者のつがやき

広報紙担当となり2か月。未だに広報紙作成ソフトになれずM氏に頼りきりな毎日です。追い打ちをかけるように、今後スペックの高いパソコンに切り替わるとの話がありました。扱いやすくなるのか、もしくは完全に置いてけぼりとなるのか、楽しみです。(T)

梅雨入りして、じめじめした日が続く季節になりました。洗濯物が乾かなかったり、髪の毛がウネウネしたり、嫌になりますね。これから台風や河川の増水など、災害が起こりやすい時期になりますので、ラジオ・メール・アプリなどを活用し、災害時にも情報が入手できるよう、日ごろから備えておきましょう。(5頁参照)(M)